

改革に逆行する機構「改革」

日本共産党津山市議員 久永 良一



質問→行政機構は、簡素、効率のよいものにし、税金の節約効果上がる組織にしなければいけない。部が増えていく。減らすべきだ。

答弁→クリーンセンター建設事務所を部

扱いとしたために増えた。

質問→つやま自然のふし館は、津山の誇るべき貴重な財産だ。管理運営を津山市に委ねたい意向がある。

答弁→責任を持った対応をする。

質問→一般競争入札を二千万円以上に変わったことは、一歩前進だ。入札者名の事前非公開、電子入札等を行い、競争性を向上させるべきだ。

答弁→実務面を整理中です。

質問→洋学資料館開館までに、城東町並み保存地区の無電柱・電線化を完了する必要はある。

答弁→新洋学資料館付近のエリアについて工法などの可能性を検討中。

新洋学資料館と学校給食センター

みどりの会 野村 昌平



質問→新洋学資料館の管理運営方式や維持管理費は、指定管理者制度導入を検討したのか。入館者の目標は。

答弁→人件費を除き、特別展開催などの

事業費、光熱費や設備の保守点検料など、経常的な管理運営費は年間二千五百万円程度。指定管理者制度は開館後一定の道筋を付けた上で検討する。入館者は現在四千五百人台だが、新館は二万人台を目指す。

質問→新学校給食センターの民営化結論とランニングコストは。

答弁→調理・洗浄と配送部門を民間委託する。年内に業者選定準備、年度内に業者決定したい。インシャルコスト約十五億六千万円に対し、ランニングコストはセンター職員の人件費を除いて業務委託費、光熱水費、保守点検等の物件費で約二億円弱を見込む。

「スクールヘルパー」全校に配置を

公明党津山市議員 岡安 謙典



えた児童生徒のサポート、外国語しか話せない児童生徒の支援などを行う)の配置要望も増えている。全校への配置はできないか。

質問→スクールヘルパー(学習支援の介助的な役割や生活や学習面で課題を抱

答弁→本年度もほとんどの学校に配置しているが、時間が短かったり、勤務日が少なかったりで十分に対応できていないのが実情である。予算的な面もあるが、人材確保の面でも課題があると考えている。今後、学校での勤務時間数の増加を図ったり、地域の人材やハローワークの活用で熱意を持った人の確保を幅広く進め、学校支援を充実したい。

青少年健全育成組織の再構築を

津山誠心会議 田口慎一郎



津山市青少年対策本部があり、全市・全庁的課題として対処する。

質問→団塊世代の相談窓口と対策をすべきた。

答弁→地域振興部の協働推進課に設置、二十年度から計画の住民自治協議会方式の中でも検討し、協働・地域活性化の視点から取り込みについて研究してみたい。

質問→水道の未普及地域における整備検討状況は。

答弁→地域住民の負担が少なく「マイ水道」といった地域住民参加型の整備方法について、環境生活部と協議中である。

質問→育成センターと鶴山塾の組織強化に全庁での取り組みはできないか。

答弁→具体的な組織のあり方を関係部署と検討・協議し組織強化に努める。